

論説

三ノ丸御殿について

会員 小野 英治

南海部師範生研大生并新
日本城郭協会 会員)

佐伯市は、去る九月二十二日、市内の学識経験者及び各種団体代表を招いて、三ノ丸公園敷地に文化会館を建設すると発表し、青写真をもとに意見をきいた由ですが、この時三ノ丸御殿については、移築、取壊し、現状のまま等意見が出て、結論が出なかつたとい、ます。

さて、三ノ丸御殿は、その希少価値からいっても、数少い江戸時代城郭の居館遺構として、日本の文化財として貴重を存在といつても過言ではありません。

文化会館の建設は有意義な事です。しかしこの文化会館が、文化財の破壊の上で建てられるとすれば、文化会館建設の意義が半減するといえるのではないでしようか。

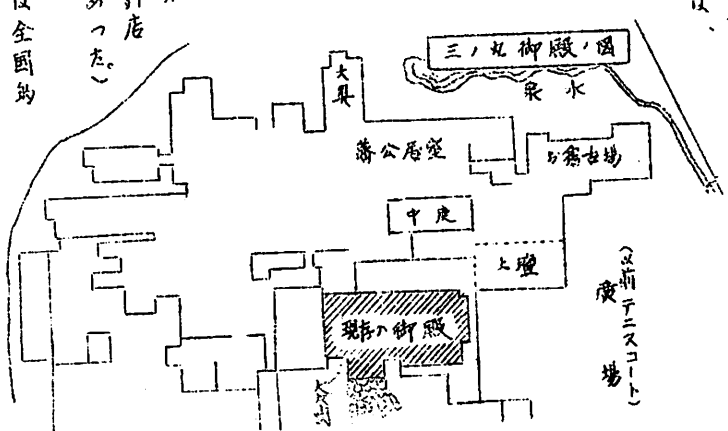
近代建築はどこにもありませんが、その土地の特色を歴史を物語る建物はそうざらにはありません。よそから訪れた旅行者が先づ訪れるのは、どこにもおあるありふれた近代建築ではなく、その土地の御上色をもつ、歴史と物語る建築物であり、史跡であり、独自の産業、観光地でしょう。

明治初期、封建時代の反動として、全国的に数多くの城郭が破壊されましたが、今日では、それがよかつた、よい事であつたと思つてゐる人がはたしてゐるでしようか。この時破壊するのを防ぐに尽力した有志には、今日では記念碑が建てられてその行為に感謝されてゐるの

は、天守閣等建造物の残つた城址でよくみかけます。

三ノ丸御殿の保存は良い事です。三ノ丸御殿といつても、江戸時代の御殿全体の規模からみれば、現存する遺構は、日んの一部に過ぎませんが、最も重要な玄関を舎を棟が残つています。そしてこの一棟は長い間、三ノ丸の代表的建物として市民に親しまれてまいりました。この建物の保存は、市民の殆んどが望んでゐることでしょう。多額の金が修理保存ともなれば必要です。しかし修理して立派になれば、大いに利用価値のある建物です。先日、佐伯を訪れた北島羽林多孝氏(東洋大学教授で文芸博士鳥羽正雄氏の夫人、同伴で旅行されてゐる)は、城と旅に九月号で次のように記してゐます。

「(前文略)……毛利家三代高直の時、寛永十四年(一六三七)に、世は恭平となり、山上の生活は不便であるといふので、山麓に三ノ丸を築いて居館としました。現在そこに御殿と大手の櫓門(筆者注、三ノ丸櫓門のこと、大手の櫓門は現在の第一時計店と裁判所の間附近にあつた)とが残つてゐます。城門も御殿も今では全国的



に数少い珍らしいものの一つに存りました。城内の御殿は丹波篠山城にも残っていましたが、惜しくも昭和十九年失火で焼失し、大阪城も名古屋城の御殿も戦災で焼け、今は京都の二條城や武蔵川越城などに見られるに過ぎないからです。ここの御殿は今、公会堂に使われていました。云々

と見聞を記していますが、行きずりの旅行者に注目される文化財を、地元が何の関心を示さないというのはおかしな事です。

將來は国の重要文化財に指定される価値が十分にある建物です。佐伯市の観光資源としても、ぜひ保存していただきたいと思っております。

(終)

報告

西谷の武家長屋門が動く

— 先ず取壊しからは救われるが —

会員 羽 柴 弘

遠からず取り壊しの運命に迫りこまれていた西谷の武家長屋門、通勤の途上その軒下を自転車で毎日通っている私は、数日前から曳移転の工事をはじめつたのを見てとった。丈夫な支柱が立てられ、ジャッキが何台も用意されている。今日(十月九日)はもう何程か上げられて鉄製のコンクリート敷きこまがてている。

学校からの帰りにふと見ると、長屋門の前に持主の佐藤勇氏が立って居られる。私は自転車をとめて立ち寄り挨拶してお話をうかがう。

はじめ佐伯市の誇りに足る文化財として、市で買収し

三ノ丸下かどこかに移築して、いつまでも保存してほという事で検討がいつけられたが、移築の費用が莫大にかかり、移築先の事情も今急にとりわけにいかず、市はとうとう断念せざるを得なくなつたようである。外にも買手はなかなかたらしく、早晚取り壊しの運命——と私はあきらめていたのだが、持主の佐藤氏は一般市民の声に添えて、取り敢えず広くない敷地にずらしこむ方法をとられたという。

先ず主家をずらして真に入札、その跡に長屋門を考えたが門の開口が広いので門から左の長屋部分と切りはなして、という筋余の策をとられたという。当分いささか不格好であるが、所有地一ぱいに一応おさめて、次の機会、道路拡張工事へはじまるまでに、移築先(買手)を得ようというわけである由。

佐藤氏と共に私は長大な長屋門を見上げながら、いろいろお話を聞かす。土台はかなりいたんでいて殆んど取り替へなければならぬが、天保十四年家老藏齋藤家の表門として新築、既に百三十年代とたっているがまことに頑丈、ほとんどいぢみがないという。

門の扉は檜(けやき)の部厚は一枚板、金具も大きく丈夫で、三ノ丸の櫓門のそれをほるかに凌ぐほど立派、これを建てた立派な文化財である。

そのうち出来るのであるが三ノ丸下の図書館あたり入口の門にでも出出来ないのか。或はどなたか篤志家が引きとつて移築し、いつまでも旧藩政時代の武家長屋敷の面影を伝えてもらえないものか。いすれにしてもこの二三日のうち長屋門は動いての上はらく時を待つて出るのか、本当によい引越先に落ちついてその庭園をいつまでも私どもに見せてほしいと念ずるものである。

(以上)